

記号の説明

- 徳島市指定津波避難ビル**
(収容人数)
- コミュニティ協議会津波避難ビル・避難場所**
(収容人数)
徳島市指定津波避難ビルに準じる避難施設として各地区協議会が設けたもの。『コミュニティ協議会津波避難ビル・避難場所』欄を参照。
- かぎ保管庫**
津波避難ビル入口の鍵が保管され、地震5強以上の揺れを感じると自動的に解錠。
- 津波避難ビル・避難場所入口**
- 幹線避難路**
- 地域避難路**
比較的広く地震発生時に道路閉塞が起こりにくいと考えられる道路で、幹線避難路や津波避難ビルまでの主要な避難路。
- 注意が必要な避難路**
比較的狭い、見通しが悪い、高いブロック塀等があるため地震発生時に道路閉塞が起こりやすい等、注意が必要な避難路。
- 主な避難方向・津波避難ビル敷地入口**
- 主な避難施設から半径500m圏**
(災害時徒歩移動 20分圏)
- 地盤標高(海拔)(m)**
東京湾平均海面(T.P.)を基準とした高さ。徳島・小松島港の各月の最高満潮位の平均値は+0.876m。
- 注意事項**

かぎ保管庫がある主な津波避難ビル



コミュニティ協議会津波避難ビル・避難場所

本施設は各地区のコミュニティ協議会が施設管理者・所有者から**徳島市指定津波避難ビルに準じた使用**と『地震・津波避難支援マップ』掲載の許可を頂いたものです。ただし徳島市指定津波避難ビルと比較して**耐震性がやや劣ったり、避難できる日時帯に制約がある**ので、**補助的な避難施設**としてお考え下さい。未広地域の6つの施設は平成25年に沖洲コミュニティ協議会の尽力で設けることができたものです。このマップをご覧の皆様も利用可能です。

県立中央テクノスクール
本館 3F(718)
避難可能日時帯
[1/4-12/28 8:30-17:15]

徳島経済産業会館
6F(557)
避難可能日時帯
[平日 8:00-19:15]

製作：渭東コミュニティ協議会/徳島大学環境防災研究センター/徳島市 (問い合わせ先：渭東コミュニティ協議会)
「この地図は、徳島市長の承認を得て、1/2500地形図を複製したものである。(承認番号 徳島市指令都政第216号)」

津波から命を守るために

強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら・・・

□ すぐに逃げる！

揺れたらすぐに津波が来ると考えて、家の片付けをしたり、誰かを待つのはやめてあなた自身が避難者になりましょう。東日本大震災で東北地方沿岸を襲った大津波のうち、宮古市付近に上陸した津波の速度は秒速8メートル（時速29キロメートル）に達していた可能性があるという分析結果もあります。陸上100m走の世界記録を持つウサイン・ボルト選手が最高の条件で走っても、ようやく秒速10.4メートルです。津波が見えてから逃げはじめても逃げ切れません。

□ 油断しない！

自分の地域には来ない、逃げる程の浸水深にならない、前は大丈夫だったから次も大丈夫等と安心せず、その時の状況下でできる最善の行動を取って命を守りましょう。先人が残した記録も1000年程度ですし、綺麗に色分けされた想定浸水域・浸水深のマップも、実は限られた情報や条件のもとで推定した「多分このような様相になるだろう」という1つの可能性を示したものでしかありません。地盤沈下や液状化等のために浸水が拡大する可能性は捨てきれません。

□ 戻らない！

津波は繰り返し襲ってきます。第2波以降が最大の場合もあります。大津波警報・津波警報が解除されるまで避難場所にとどまりましょう。

■ いざという時の連絡先
 〔消防〕火災・救急・救助 119
 〔警察〕事件・事故 110
 徳島市災害対策本部 621-5010
 (徳島市危機管理課) 621-5527
 徳島市消防局 656-1190

■ マップの問い合わせ先
 渭東コミュニティ協議会 652-2546



想定浸水域や浸水深、家庭での防災対策、災害情報の入手先、避難時の持ち出し品等は『徳島市地震・津波防災マップ』（平成26年3月）に詳しく掲載されています。この冊子は徳島市役所危機管理課（庁舎7階）で入手できます。

渭東地区(福島小学校区)

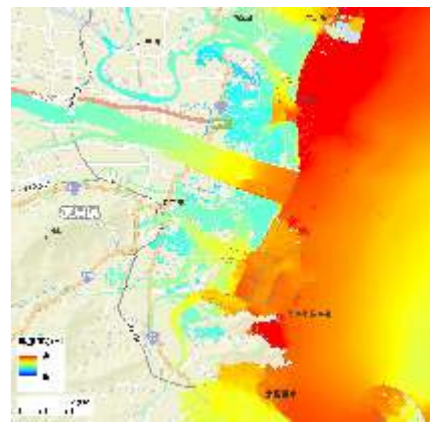
地震・津波避難支援マップ

製作：渭東コミュニティ協議会・徳島大学環境防災研究センター・徳島市

■ 地震・津波避難支援マップ

このマップ（地図）は、南海トラフ巨大地震によって発生が想定されている大津波に対して、住民一人一人が安全で円滑な避難を日常的に考えるために必要な情報（津波避難ビル、避難路等）を渭東コミュニティ協議会、徳島大学環境防災研究センター、及び徳島市が協力してまとめたものです。

巨大災害に備えるためには災害の規模に関わらず「その時、その場所で、その人にできる最善の行動を考える」ことが大切です。そのため、このマップには先入観を与え、避難の初期行動の妨げになりうる想定浸水域・浸水深を記していません。様々な状況を想像して避難行動を常に考える習慣が、安全で迅速な避難行動に繋がります。想定浸水域・浸水深は『徳島市地震・津波防災マップ』（平成26年3月）をご覧ください。



津波の遡上シミュレーション事例
資料提供：徳島大学大学院 馬場俊孝教授

避難場所や避難路は、地盤沈下、液状化等による破損・倒壊の他、火災等によっても使えなくなる可能性があります。そのために、複数の避難場所・避難路を考えておくことが大切です。また実際に歩いて避難場所・避難路の状況や避難所要時間等を確認しておくことが重要です。

■ 避難は徒歩（車による避難は原則禁止）、避難に使える時間は20分程度

南海トラフ巨大地震で発生する大津波が徳島市東沖洲マリニピア東端に到達するのは地震発生から41分後、高さ約5mの最大波が到達するのは地震発生から53分後と想定されています。津波によって渭東地区全域が浸水し、地盤が低い所では浸水深が4m前後に達する可能性があります。地震発生から大きな揺れが長時間（5分程度）続くことや、その後の安全確認と避難の準備、家具やガラス等が散乱した屋内から外に出るために10分～15分程度かかるとすれば、余裕をもって避難場所まで移動できる時間は20分程度と考えられます。

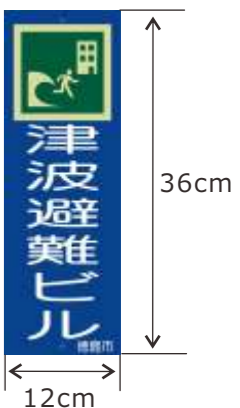
家屋・ブロック塀・電柱等の倒壊、屋根瓦・看板等の落下、道路の陥没・埋設物の浮上等が起こるため、徒歩避難が原則です。歩行速度は被災状況によって変わりますが、道路上の障害物の他、負傷者・高齢者・幼児を介助しながらの避難となるため、普段の半分程度になると考えられています。このマップでは避難歩行速度を35m/分、避難時間は20分（約700m移動可能）と仮定しました。収容力が大きな津波避難ビルには、約20分で到達可能な半径500m円（避難路は折れ曲がっているため移動距離700m相当します）を描いています。参考にしてください。

■ 緊急的に避難する「津波避難ビル」と救援・救護等の拠点「避難所」

徳島市指定津波避難ビルは、①鉄筋コンクリート造(RC)等の堅牢な建物 ②津波の基準水位以上の床標高を有する建物 ③避難に有効な階へ入口から自由に入ることができる建物の基準を全て満たす施設で、徳島市と施設管理者の間で協定書が交わされたものです。その建物には図に示すようなプレートが取り付けられています。

津波避難ビル名称に付けられている（数字）は、想定される津波が襲ってきた場合に、安全な高さにある階（目安は3階以上）の収容可能人数で、1人あたり1m²で概算したものです。夜間・休日等に施錠される施設には「かぎ保管庫」が備え付けられています。かぎ保管庫は震度5強以上の揺れを感知すると扉が解錠され、入口の鍵を取り出せます。

津波避難ビルは階段・廊下等の共有スペースを緊急的な避難場所として数時間程度使う施設で、食料・毛布等の備蓄は原則ありません。大津波警報・津波警報が解除されて周囲の安全が確認できたら、速やかに避難所（救護・救援・情報の拠点で、一定期間、避難生活を送ることが可能な場所）に避難して下さい。地区および周辺の徳島市指定避難所は、渭東コミュニティセンター、福島小学校、城東中学校、沖洲地区の徳島市立高校等です。なお、これらの指定避難所は全て津波避難ビルも兼ねています。



徳島市指定
津波避難ビル
プレート